

令和4年度 八代市ケーブルテレビ放送番組審議会感想回答

【指定管理事業者:テレビやつしろ(株)】

・日本遺産を巡るモニターツアーを八代東高校生が企画 5分

日本遺産になった地元、東陽町にある石橋の魅力を少しでもお伝えすることが出来たなら幸いです。

取材を通して、八代を担う若い世代が地元の魅力を積極的に発信している姿を目の当たりにしてこちらも良い刺激を受け、高校生の発想力や行動力に私も負けていられないなと思いました。

今後も八代の魅力を発信している若い世代や人を積極的に取材できればと思います。

・どこそこ気になる隊「お茶の泉園」 5分

泉町にニューショップができたことが嬉しく一等星を見ているような高揚感で泉町の皆さまにもこの喜びをシェアしたいと店舗建設中から取材を楽しみにしていました。

自分本位で制作した番組で申し訳なさがありますが、審議委員の皆さまには制作技術のご評価はもとより、番組を通して商品への興味や経営者の思いを受け取っていただけたことに胸をなでおろしています。

ただ、ご意見にもありましたようにスポットを当てるべき人物や物事を探し継続して紹介していく必要があると感じました。

全体的な意見の中には「地域のイベント番組が少なくなった」とのご意見がありました。

コロナ以前はイベント番組を主軸にチャンネルが成立していましたが、コロナ後は、中止や開催しても縮小で番組にしてもらうほどのイベント内容ではないとの主催者からの申し出もあり番組が減っていきました。

個人的にも毎年同じイベントを取材し、あまり代わり映えしない番組を視聴していただけるのか不安がありましたが「地域のイベント情報も提供した方が良い」とのご意見に希望をいただきました。

毎年のように開催されるイベントでも全く同じではないことを感じ取り表現することが大切なのではと気がつきましたので取材方法について熟考します。

・やっちろ弁、わかるかいた？坂本町 深水編 5分

「やっちろ弁、わかるかいた？」では昔から人々の生活に根付いた八代弁。今の若い人たちや新しく八代に来た人がわからない(わからなかった)八代弁。地域によって少し違うイントネーションや言葉などをインタビュー形式やプチクイズ形式で聞き、子どもたちにもわかりやすくお届けする番組を目指しています。

出てきたやっちろ弁のナンバリングや年間ダイジェストや「やっちろ弁オブザイヤー表彰」は是非やってみたい案だと思いました。

それから今回最後に紹介した「走り水の滝」の簡単な所在地説明。今後、名所や視聴者が気になりそうな場所は説明を付けていきたいと思っております。

今回のご意見を取り入れながらケーブルテレビの強みを活かした取材、番組の制作が出来るように地域の方からの情報や打合せなど人と人との繋がりを大切に取組んでいきたいと思っております。

・甦れ、わたしたちの「奇跡のピアノ」旧藤小学校ピアノ再生プロジェクト 10分

2020年の豪雨水害から2年7ヶ月が経ち、豪雨災害を風化させてはならない。

多くの人に坂本町の今を発信し続けなければと日々感じております。

この番組を作るきっかけとなったのは、一本の電話からでした。67年前のピアノ再生に向けて動いているので撮影をお願いしたいとお話を頂き「是非、取材します！」と即答いたしました。

豪雨水害を乗り切った藤本小のピアノをまた、ピアノを取り巻く人々の想いをより多くの人に知ってもらわなければと番組を制作しました。

審議員の方々のご意見の中に「皆さんの願いが叶うことを祈りたい」「修理後、ピアノを弾かれる場面を見てみたい」とありましたが、私も全く同感です。

現在、奇跡のピアノはどうなっているかというと、全国から温かい支援を受け外装を除く修理費の目標額に達することができたそうです。

そして、修理を終えたピアノは修理専門会社で保管され坂本町に戻るその時を待っています。

今春、奇跡のピアノは坂本温泉センタークレオンに設置され、誰もが気軽に弾くことができるようにと検討されているとのことです。また、ピアノ再生プロジェクト実行委員によると春以降、ピアノのお披露目と合わせて、コンサートも開きたいということでしたので、その時の様子を番組にしようと今から楽しみにしています。

今後、放送した番組が末長く貴重なアーカイブとなることを目指して、日々の取材に力を入れていき、多くの人から親しまれる番組づくりに励んでいきます。

自主制作番組に対する全体的なご意見に関しまして

委員の方々には、お忙しいところ時間を割いて審議用の映像を見て頂き、多くのご意見を出して下さいましたことに心から感謝致します。

それぞれの番組に関しまして、コロナ禍により中止されていたイベント等の再開がされはじめてはいますが、まだまだ縮小傾向のなか、八代を担う若い世代が地元の魅力を積極的に発信している姿をみて、当社も地元密着のケーブルテレビならではの取り組みが出来ればと感じております。

また、豪雨災害から少しずつ時間が経過し少しずつ記憶が薄れていくなか、まだ復興の最中にあり、未来に残す映像のアーカイブとしての役割であると再度認識し、貴重な資料映像ともなりますので八代の情報として新たな取り組みも考えながら、視聴者の方々に見やすく聞きやすい、そして喜んでもらえる番組づくりを目指します。